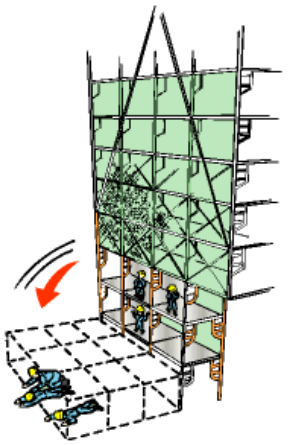
ジャンプ足場の解体作業中、足場が転倒



事故の発生は、建屋東側に設置してあったジャンプ足場(11 段＋4 スパンの枠組みユニット 2 ブロック)を解体ヤードに移動させ解体し、組替える作業であった。当日の朝、最大風速 9m／秒の風であったが、予定どおり解体作業を行った。

ジャンプ足場 11 段×4 スパンの枠組み足場を下から 4 段目のところで切り離し、移動式クレーンで吊り上げ作業にかかった。その時、足場にネットと跳ねだし部の布板が引っ掛かかっているのに気づき、このネット等を外すために足場の 4 段目に労働者が上り作業中、突風が吹いて残っていた足場が転倒した。被災者は休業者 3 名、不休者 1 名であった。

この災害の原因としては、次のことが考えられる。

1　事故当日の朝、風が強いのに作業の関係で、解体作業を行った。
2　足場を解体するために、縁切りの際、ネットや布板が引っ掛かるなどのトラブルについての措置を講じていなかった。
3　このネット等の縁切のため、足場上に作業者が上らざるを得なかった。
4　作業手順どおりでない作業方法によって解体作業が行われた。(3 段の縁切をした、転倒防止の足場の控えもなかった)
5　会社の作業手順が決められていたにもかかわらず、現場ではそれが守られていなかった。

同種災害を防止するためには、次のような対策の徹底が必要である。

1　強風についての認識がないので、これについての安全教育を実施する。
2　安全点検は、作業着手前に確実に実施する。トラブルは作業前に手直ししておく。
3　作業前の安全ミーチングにより、作業方法を打ち合わせその場合に安全手順を確認する。
4　足場の解体作業においても、足場組み立て等作業主任者を選任し、その者に作業の指揮をさせる。